

日時 平成 25 年 10 月 31 日（木） 午後 3 時～午後 4 時 10 分

場所 鎌倉市役所 第 3 分庁舎 2 階 災害対策本部室

議事

1. あいさつ

【市長】ご多忙にもかかわらず、交通計画検討委員会に出席して頂いたことに御礼申し上げます。また、これまでも様々な議論を頂いていることに心より感謝を申し上げます。

先般、国土交通省の社会実験制度に応募し、来年 1 月の実験を目指して取り組まれてきた循環バスの社会実験案について、9 月末に国土交通省からは選定されなかった旨の報告があった。しかしながら、このバスの運行は市民の利便性向上に繋がっていくことになるので、実験期間は短縮になるが、市の予算で実験を行うことができるように指示をしたところである。その後は実験の効果を検証し、実験結果を踏まえた中で、本格的な実施を視野に入れて検討して頂きたいと思っている。

また、先般の選挙の中での公約の一つとして、鎌倉地域に入ってくる自動車交通の流入抑制という具体的な一つの方策として「ロードプライシング」を掲げた。様々な議論を経た上での実施ということになると思うが、是非とも皆さんに議論して頂き、市民や観光客の方にとって、鎌倉が安全・安心に歩けるまちとなるよう、私自身も実現に向けて精一杯取り組みを進めたいと思っている。今後とも理解、協力をよろしく願います。開会に先立ち、ご挨拶と代えさせて頂く。

2. 確認事項

【事務局】4 点確認したい。まず 1 点目は情報公開についてである。鎌倉市交通計画検討委員会条例施行規則第 4 条では、「会議は、公開とする。」としている。従って、今回配付した資料は、全て情報公開の対象としたい。

2 点目は傍聴についてである。今回の鎌倉市交通計画検討委員会の傍聴者を広報やホームページにおいて募集したところ 2 名の申し込みがあった。よって、傍聴も認めたい。

3 点目は本日の会議の議事録についてである。原則公開になるので、作成次第、委員の皆さんに確認の上公開するが、発言者の氏名は非公開とする。

4 点目は第 4 回の鎌倉市交通計画検討委員会議事録(案)についてである。委員の皆さんに内容の確認をお願いし、要望があった箇所は修正を行い、最終案は、今回の資料の中に事前に送付している。修正が無ければ、この内容を持って確定したい。

【委員長】事務局から「資料は全て情報公開の対象」「傍聴者への公開」「議事録の公開」「第 4 回鎌倉市交通計画検討委員会議事録(案)の確定」について確認があったが、意見はあるか。

【●●委員】議事録 9 ページの下から 8 行目に「商工会議所等からも」とあるが、「商工界からも」と発言をしたと記憶している。

【委員長】事務局は、指摘の通り訂正するようお願いする。その他についてはいかがか。

【委員一同】異議なし。

3. 議題

(1) 平成 25 年度社会実験の実施計画について (事務局から資料の説明)

【委員長】それでは、資料の補足について、副委員長からお願いしたい。

【副委員長】資料の 1 ページをもう一度見て頂きたい。前回の 5 月 30 日の第 4 回検討委員会の後、7 月 24 日と 10 月 3 日の 2 回、専門部会を開催した。10 月 3 日の第 9 回専門部会では、国の社会実験に採択されなかったという結果が届いた直後の開催だったので元気がなかったが、事務局が様々な工夫をして、社会実験の実施に向けて努力するという事で、専門部会としても前向きに考えているところである。

それから、循環バスの愛称を『スーバ』にすることは、既に検討委員会です承して頂いていたかを事務局に確認したい。

【事務局】前回の検討委員会の中で『スーバ』という名称を出した。

【副委員長】なぜ『スーバ』かと言うと、「逆に周るので、『バス』の逆」という意味である。

【委員長】それでは今、説明して頂いた平成 25 年度 of 社会実験の内容について、意見交換をしたいと思う。

【●●委員】資料 2 ページ目の一番下の「観光バスの駐車場予約お願い」と書いてあるが、これも社会実験の項目の一つと考えて良いか。

【事務局】この検討委員会でも観光バスについては色々議論してきたところである。また議会等でも、議員の方からも渋滞の原因の一つとして、観光バスが駐車場の予約なしで入って来ることについて指摘があった。その中で、予約が可能な駐車場がないかを調査をしたところ、6 件の駐車場が予約可能ということが確認でき、市ホームページへの掲載について駐車場事業者に了承を頂いた。これは社会実験ではないが、ホームページに掲載することで、少しでも渋滞を解消しようという取り組みである。

【●●委員】10 ページの「観光バス駐車場予約お願い」にある 6 箇所の駐車場が、予約可能な駐車場と考えてよいか。

【事務局】その通りである。

【●●委員】私は極楽寺の切通しを下りて、坂ノ下へ出てから、長谷の江ノ電の踏切を渡り、高德院へ出る道をよく利用するが、高德院の駐車場が混雑している。ひどい時には坂ノ下の奥の方まで車が繋がってしまい、ここを抜けるのに 1 時間位掛かることがある。例えば七里ガ浜のプリンスホテルの駐車場はさほど混む訳ではないので、予約が可能なのかもしれない

が、もっと問題がある観光バスの駐車場が色々あると思う。その辺はどのように検討されたのか。

【事務局】指摘された高德院の前の駐車場は、皆さんご存知のように狭隘な駐車場である。私どもが確認したところ、そこでお客様を降ろして、その観光バスが笛田にある広場で待機をして、また高德院に引き返すシステムをとっているようである。ただ、先程も言ったように狭隘な駐車場なので、予約ができないというような状況である。

【●●委員】予約ができないというのは分かる。笛田の方にバスを移動させているのは聞いているが、高德院付近で車が滞ってしまうため、坂ノ下の方から上がってくる交通に影響するので、この辺の改善も必要である。高德院辺りにもっと良い駐車場を整備した方が良いのではないかと思う。状況は良く分かった。

【委員長】観光バス会社にはどのように周知するのか。

【事務局】10ページの冒頭に掲載したような内容で、お願いをしようと思っている。具体的には、文書で旅行会社等に周知したいと思っており、できる限り協力して頂くように、取り組んで行きたい。

【委員長】関係する事業者の方にもお願いをするということである。その中で今のような箇所についても問題が多く、駐停車違反は当然厳しく報告するというので、適切な運営を強くお願いした方が良い。他にはいかがか。

【●●委員】『スーパ』は県道金沢鎌倉線の周辺に暮らす方の特異日における利便性を上げることが第一目的だと思うのだが、国土交通省の実験から漏れたのをきっかけに考えてみたところ、観光に寄与すると考え、ある程度PRできるのではないかと思う。というのも、杉本寺、報国寺方面の観光は、どんな健脚な方でも片道歩くのが精一杯であり、往復歩くのはかなりしんどいと思う。渋滞を鑑みると、現状では多くの方は行きにバスを使って、帰りは歩いて八幡宮に寄りながら駅方面に戻ってくると思うが、これが特異日に運行されるようになると、逆方向の観光が可能になるとも考えられる。同時にこの社会実験の時に、観光客に対する何らかのPRをしていく必要がある。特に5月の連休に実施するのであれば、「特別にこういうことをやっています」ということを広く観光客に周知していくのも大事な方策だと思う。ここで、●●委員にお聞きしたいのだが、現在の環境手形にこの区間を組み込むのは中々難しいことだと思うが、それができれば歩く観光も含めて、この『スーパ』の利用が高まると考えているがいかがか。

【●●委員】現在の環境手形の中には、その区間は入っていない状況である。しかし、三日限りの社会実験ということもあり、乗車して頂けるような取り扱いにすることは不可能ではないと思う。当然調整は必要だと思うが、どのようにすれば出来るのかの理論付けについては、考えてみる余地はあると思う。

先程事務局から説明があったが、正式な手続きでの路線バスの運行を考えると、12月の議会の結論を経てから3月の実施に間に合うよう手続きをすることは、相当当局に無理をさせて

しまう。現在公示されている処理期間の中では間に合わないだろうと考える。基本的には、5月の連休の方が混雑度も高いため、副次的なものも含め、より実験の効果が高まると思う。そして PTPS の実験も併せて行うということであるが、3月に新たな PTPS を搭載した車両を手配することは少々厳しいと考えている。事業者からすれば、5月のゴールデンウィークに実施をお願いできればと考えている。

【委員長】最初の広報の話については市からお願いしたい。

【事務局】住民だけではなく観光客も対象とするという●●委員の意見について、実験を3月に行うのか5月に行うのかによってもだいぶ違うと思う。仮に5月ということであれば、やはり観光客の利用も可能だろうと考えている。また、その周知の方法についてはこれから検討するが、各バス停に調査員を配置する予定でいるので、その際に観光客に周知をするという方法も可能である。地域の方だけではなく、観光客にも利用して頂けるような工夫をしていきたいと考えている。

【委員長】総合交通観光情報は鎌倉市観光協会のホームページも活用したいと記載があるが、この『スーパ』も同じことができると理解してよいのか。

【事務局】まだ観光協会と具体的な話を詰めていないので、今後実際に可能かどうかを検討していきたいと考えている。

【委員長】やはり、できるだけ周知を図り、多くの方に利用して貰いたいので、よろしく願いする。これまでかなりの数の専門部会を重ねて検討頂いた内容であり、国土交通省の予算は取れなかったが市で実施して頂けるということで、概ねこの内容については皆さん理解して頂いていると思う。その他に意見や質問はあるか。

【●●委員】10ページの駐車場案内に観光協会臨時駐車場とあるが、これは7月と8月の夏季のみ京急バスの駐車場を借りていたが、その他の期間は京急バスが市外・県外からのバスへ駐車場を独自に貸していたと把握している。

【●●委員】基本的には、昼間に営業所のバスが出払った時間を利用していただけだと思う。7月と8月に協力させて頂いている状況である。

【●●委員】夏場は非常に観光バスが少ないため、ほとんどは自家用車である。すると逆に10ページの表中の6番の大型観光バスに対しての案内は、観光協会の駐車場ではなく京急バスへ案内するとした方がスムーズでないか。

【●●委員】本業で行っているわけではないため余力があまりない。よって公に予約を取って我々が管理をすることは非常に難しいと思う。しかし鎌倉市内の大型バスの駐車場問題等もあるため、一旦話を持ち帰り、どのような方法で協力できるのか等を確認したい。

【委員長】是非検討して頂きたい。大体の内容は理解して頂いていると思うので、実施した結果を早く見たいということかもしれない。次回の検討委員会はいつ頃を予定しているのか。

【事務局】 次回の第6回検討委員会は、来年の3月を予定しており、その中で総合交通観光情報の提供状況について、具体的に報告をしたいと考えている。

【委員長】 専門部会での取り扱いはどのようになっているのか。

【副委員長】 1ページのスケジュール表に戻って頂くと、今後の専門部会は、11月、平成26年1月、3月の開催が予定されている。『スーパ』やその他の社会実験の実施に向けた具体的な準備や、鎌倉地域地区交通計画（案）の策定がある。このように今回の社会実験以外にも色々と検討してきた施策があるため、それについての議論を深めていきたいと考えている。

【委員長】 これまでは比較的施策の整理の話が中心であり、メインである逆周りの『スーパ』のデータは5月以降にならなければ出て来ない。来年度もこの検討委員会は続くということか。

【事務局】 是非来年も継続してほしいと考えている。

【委員長】 いずれにしても、社会実験並びに交通状況を改善しなければならないので、引き続き委員の皆さんの知恵を借りたいと思う。今日の主なテーマは平成25年度の実験の実施計画であったが、他に何か発言があればお願いしたい。

【●●委員】 先程の市長の話の中に「ロードプライシング」が出ていたが、その進め方はかなり難しい問題だと思う。市民の皆さんに理解をして頂かないと難しいと思っている。

【委員長】 市長が挨拶された中で話が出たので、もし皆さんから意見があれば、少し意見交換をしておきたい。

【●●委員】 市長の公約の一つかもしれないが、先程の話を聞いて市長はロードプライシングについての知識はどの程度持っているのかが疑問だった。世界でも、特に東南アジアのシンガポール等では行っているが、非常に困難を伴っている。日本国内においても、「ロードプライシング」を採用しているところは非常に少ない。少ないというよりもないのではないかと考えている。それで市長の考えをもう少し具体的に伺いたいと思う。今日の会議に出席されている各分野の代表の方々の意見を伺いたい。以前、専門部会でもこの件について皆で話し合いをしたが、その時は「困難だ」という結論だったことを記憶している。

【委員長】 皆さんから意見があれば頂きたい。

【●●委員】 ロンドンでの事例とは違って、やはり日にちを考えなければならない。正月三が日やゴールデンウィーク、秋の連休等、全国的に鎌倉が混雑している日が分かる期間に限ってやらないといけない。混雑していない時もあるので、一年中実施するのは難しいという感想を持っている。

【委員長】 他の方はいかがか。

【●●委員】 中身の問題ではなくて、進め方の問題である。市長は簡単にロードプライシングと言うが、具体的にどういうことを考えているのかなど、その内容を良く聞かなければいけ

ないということと、仮にそういうことを考えているのだったら、この検討委員会との関係をどのように考えているのか。

【事務局】 市長が先程挨拶したが、「温故知新」という市長の公報にも『『ロードプライシング』を進めていく』という記述が具体的に書いてある。今後どう進めていくかは、この検討委員会、または専門部会で議論して決めて頂きたい。事務局としては、どのように進めていくかは、まだ市長とも具体的に詰めていない現状である。

【●●委員】 この委員会へ投げかけられると理解して良いのか。そこが問題である。

【委員長】 私の理解としては、市長から要請があったので、どんなことができるのかはきちんと検討して答えなくてはいけないと思う。ただ、具体的な作業を一編にやるのは難しいので、大変申し訳ないが副委員長に少し知恵を出して頂いて、本当に何ができそうかを考えたい。この話も10年ぐらい前からずっと出ては消え、出ては消えしている。一体何が本当にできるのかを明確にし、委員の皆さんの理解を共通にした上で議論ができているかがまだ分からない。従って、この10年間で技術が進んでいるので、なるべく具体的に「こういうことなら昔と違ってやり得るのかな」や、先程「特異日だけでもいいのではないか」という話もあり、色んな考え方があると思うので、少し専門的な見地で資料等を整理して頂いて、その上で皆さんに見て頂きながら、専門部会で正式に議論して頂きたい。最初からこれは無理だとなればそれもなしかも分からないが、手順を踏んでいかないと、答えだけをすぐに出すのは難しいと感じている。ただ、市長はロードプライシングを公約にして選挙に出られたし、それで再選されているので、我々としてもより一層深めた議論をしなければいけないだろうという責任は感じている。

【副委員長】 念のために申し上げますと、専門部会は今まで9回やってきたが、「ロードプライシング」についての議論は全くしていない。専門部会の中で3回位単語が出てきたかもしれないが、まずはできそうなことからやろうということで、議論しないで来たというのが正直なところである。委員長から説明があったように、市長から要請があったということは、非常に重い話なので、今の話のように、できるかできないかはまず置いておいて「そもそもどんなものなのか」、「どんなことならあり得るのか」、「今こういうことに関する技術というのはどの位進んでいるのか」、そういうことは専門部会で議論する価値はあると思う。

【委員長】 「何をまとまってやるのか」が見えていないままだと、議論はしづらいと思うが、他の方の意見はいかがか。今回は平成25年度の社会実験、あるいはそれに加えての様々な情報提供等、今やり得ることを取り敢えず全てやってみましょうというところからスタートしているので、勿論その結果を見て解決できればそれで良いし、更なる工夫が必要だとすればそれは何なのかを、その後に詰めていく話になると思う。「ロードプライシング」という手法がその一つかも分からない。ただ先程言った通り、この10年間でかなり技術が変わってきている。データも最近流行りの「ビッグデータ」のような大きなデータがたくさん入手でき、以前よりも渋滞の状況が良く分かるようになってきているので、少し具体的に、このような分野の専門家の知恵をまず副委員長に整理して頂いて、その上で専門部会の皆さんに議論して頂く

というステップを踏んだ上で、検討委員会に持ち上げるのかも含めて議論頂ければいいと思う。そういう意味では、今年は難しいかもしれない。今年はやるべきことが他にもあるので、これを着実にやった結果をまず見たいと思う。

【●●委員】「ロードプライシング」について、やはり日本では初めてになるのか。もうやっている例はあるのか。

【委員長】高速道路など、有料道路はある。ただ、ある交通渋滞の目的のために特別に課金する制度と言えは初めてである。

【副委員長】有料道路において複数のルートがあるとして、こちらのルートは混んでいて、しかも市街地に近いので料金を少し上げて別のルートに誘導しようという意味の、環境を良くするために料金を操作する施策は日本でもやった例はある。ただ、それ以外の、特に無料の普通の市街地の道路に課金した例はない。

【●●委員】一つのまちに流入する車に対してという意味では多分例がないと思う。外国の例を研究されている方とか、国土交通省の中でも交通に詳しい方とか、ここにいらっしゃらない方の何らかのレクチャーが必要ではないのか。

【委員長】特にこの10年間で情報関係の機器はものすごく発達しているので、「最近は何が技術的にできているのか」という話を伺っても良いかもしれない。

【●●委員】一度東京都が検討したという話を聞いているが、実現には至っていない。それはやはり課金徴収の方法や、迂回交通の影響等、色んな課題があって、中々実現に至っていないという話は聞いたことがある。それと、道路の法的な話で、基本的には「原則無料」という考えがある中で、相当色々知恵を絞りながら検討しなければならない。進めていくためには、やはり議論が必要という認識を持っている。

【●●委員】県道や国道の本来の用途は自由交通なので、何か新しい法律が必要な気がする。

【委員長】鎌倉においては県道が重要なルートなので、県の協力がなくともまくいかないかも分からない。勿論警察の意見も踏まえなければいけないということで、関係者がかなりいるので、一気に進められる感じでもない。先程のように、「そもそも今はどういうことができるようになっているのか」や「他の国はどういう風になっているのか」ということは、基礎的な知識として我々も少し勉強した方が良いかもしれない。副委員長には、更に色々と情報を整理した上で、分かりやすい形で、「鎌倉としてはどんなことが考えられるのか」ということが詰められるところまで詰めて頂いて、その上で意見交換するというのを、少しずつやっていきたいと思うので、よろしく願います。11月から様々な情報提供が始まり、5月には循環バスの社会実験を実施する予定なので、その結果を見ながら引き続き、鎌倉の交通問題を考えていきたい。

4. その他

【事務局】先程説明した通り、次回の第6回検討委員会は来年3月の開催を予定している。決定次第、委員の皆さんに通知させていただきますので、よろしくお願いいたします。

【委員長】今後、色々なアイデアを思いつかれたら、是非、事務局の方に「こんなことをやっ
てはどうか」と伝えて頂ければと思う。様々な知恵を重ね合わせて、鎌倉の交通問題を少し
でも良くするというのが我々の使命だと思うので、どうぞよろしくお願いいたします。それでは、
これをもって本日は閉会とさせていただきます。

以上